



年頭のごあいさつ

組織横断的な基盤の確立を図り、 市町村事務の広域的な運営の推進を支援する



鹿児島県国民健康保険団体連合会
理事長 前田 祝成

新年あけましておめでとうございませう。令和7年の輝かしい新春を迎え、謹んでごあいさつ申し上げます。

皆様方におかれましては、平素から国民健康保険事業並びに介護保険事業の円滑な運営にご尽力されていることに対し、深く敬意を表しますとともに、本会の事業運営に格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、『経済財政運営と改革の基本方針2024』では、国民が豊かさ幸せを実感できる持続可能な経済社会を目指すため、「成長と分配の好循環」の基盤となる改革を進め、中長期的な社会の構造変化に耐え得る強靱で持続可能な社会保障システムを確立する必要があるとされており、実現に向けては医療・介護等の不漸の改革により、ワイズベンディングを徹底し、保険料負担の上昇を抑制することが極めて重要であるとされております。

このため、医療・介護保険等の改革では、給付と負担のバランスや現役世

代の負担上昇の抑制を図りつつ、各種医療保険制度における総合的な検討を進めることとされております。

とりわけ国民健康保険制度については、都道府県内の保険料水準の統一を徹底するとともに、保険者機能の強化等を進め、医療費適正化や都道府県のカバナス強化等にも資するよう財政支援の在り方について検討を行うとされております。

本会におきましても、国の動向を踏まえ、あらゆる情勢の変化に柔軟な対応ができるよう組織横断的な基盤の確立を図り、第4期中期経営計画の目標達成及び円滑な遂行に向け、役員一体となつて取り組んでまいります。

また、「審査支払機能に関する改革工程表」に基づく審査支払システムの共同開発・共同利用や、国の医療DXの推進など、審査支払業務を取り巻く環境は大きな変革の中にあることから情報収集に努め、審査支払事務の適正かつ効率的な運用の推進を図ってまい

ます。

保険者支援においては、「第3期鹿児島県国保運営方針」に基づき、審査支払機能による医療費適正化の取組強化、国民健康保険制度における保険料水準統一の徹底、予防・重症化予防・健康づくりの推進への対応、市町村事務の広域的及び効率的な運営の推進に向けた支援を行ってまいります。

さらに各システム等を活用したデータ分析や評価、データヘルズ計画に基づく効果的な保健事業等医療費適正化に資する取組の支援、広報事業及び事務の効率化を図るための電算共同処理や第三者行為求償事務並びに介護給付費適正化事業等、保険者に共通する事務処理等の一元的実施についても充実を図ってまいります。

加えて、改正介護保険法において、「地域支援事業」に位置付けられている介護情報基盤の管理・運営については、保険者が抱える課題やニーズを的確に捉えた保険者支援を実施するため、国保中央会及び全国国保連合会とともに検討してまいります。

結びに、本年も本会へのさらなるご理解、ご協力を心からお願ひ申し上げますとともに、皆様方にとつて実り多き年になりますようご祈念申し上げます。年頭のごあいさつといたします。

令和7年 元旦

皆様の益々のご健勝とご多幸をお祈りいたします。

鹿児島県国民健康保険団体連合会

理事長 枕崎市長 前田 祝成
副理事長 肝付町長 永野 和行
(職務代理者)

出水市長 椎木 伸一

常務理事 学識経験者 塩田兼一郎

理事 薩摩川内市長 田中 良二
霧島市長 中重 真一

始良市長 湯元 敏浩
三島村長 大山 辰夫

湧水町長 池上 滝一
瀬戸内町長 鎌田 愛人

徳之島町長 高岡 秀規
南九州市長 塗木 弘幸

大和村長 伊集院 幼
外職員一同

鹿児島県国民健康保険
診療報酬審査委員会
会長 花田 修一

会長職務代行者 牟禮 洋

外審査委員一同 堂原 義美

介護医療部会 濱田 陸三

部会長 外委員一同

鹿児島県国民健康保険診療施設協議会 鈴木 濟

会長 外役員一同

新年賀詞



健康で長生きのできる社会の実現を 目指して



鹿児島県知事 塩田 康一

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

各保険者及び鹿児島県国民健康保険団体連合会の皆様には、日頃から国民健康保険事業及び介護保険事業等の円滑な運営に多大な御尽力をいただき、深く感謝申し上げます。

また、健康保険証の新規発行の終了に伴う、マイナ保険証を基本とする仕組みへの円滑な移行に向けて、多大な御協力をいただいたことに、重ねて感謝申し上げます。マイナ保険証の更なる利用促進や被保険者の皆様の不安解消につながる広報等につきまして、引き続き御協力いただきますよう、お願い申し上げます。

今年、団塊の世代が全員75歳以上の後期高齢者となります。加えて

本県では、今年65歳以上の高齢者人口がピークを迎え、2045年には医療・介護双方のニーズが高まる85歳以上人口がピークを迎えることが見込まれております。

また、国民健康保険制度は、年齢構成や医療費水準が高く、小規模保険者が多いなど構造的な問題を抱えております。

県といたしましては、「県国民健康保険運営方針」に基づき、引き続き、市町村と一体となって保険給付の適正化及び国民健康保険制度の安定的な財政運営に努めるとともに、更なる安定化を図る観点から保険料水準の統一に向けて市町村との協議を進めてまいります。

併せて、特定健康診査等の受診率

向上に係る広報や、生活習慣病の重症化予防に係る人材育成等に取り組む、県民の皆様の健康の保持増進を推進してまいります。

高齢者施策につきましては、地域の人口動態や介護ニーズの見込み等を踏まえた上で、高齢者の健康づくりと社会参加、認知症施策の推進、介護予防、医療・介護連携による在宅サービスの充実、介護人材の育成・確保及び介護ロボット、ICTなどを活用した介護現場の生産性の向上、保険者機能の強化を行うとともに、市町村、関係機関・団体や地域の皆様と連携を図りながら、「高齢者が生きいきと・安心して・支え合って暮らせる長寿社会づくり」に取り組んでまいります。

県民の皆様の健康づくりにつきましては、昨年3月に策定した県の健康増進計画「健康かごしま21（令和6年度～令和17年度）」において、県民の健康寿命の延伸と健康格差の縮小、生活の質の向上を目標に掲げ、各種施策を展開しております。

栄養・食生活や運動・飲酒などに関する生活習慣の改善を図る「個人の行動と健康状態の改善」、健康な食

環境や身体活動・運動を促す環境といたった自然に健康になれる環境づくり等に取り組む「社会環境の質の向上」、胎児期から高齢期に至るまでの様々なライフステージ毎の健康づくり、いわゆる「ライフコースアプローチを踏まえた健康づくり」の取組を地域・職域・学域等の団体と連携して進め、心豊かに生涯を送れる健康長寿県の創造を目指してまいります。

これらの施策を通じて、今後とも、健康で長生きできる社会の実現を目指し、全力を挙げて疾病・介護予防及び健康づくりの推進に努めてまいりますので、鹿児島県国民健康保険団体連合会におかれましては、国民健康保険事業及び介護保険事業をはじめ、県政各般の施策の推進に一層の御理解・御協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

結びに、各保険者及び鹿児島県国民健康保険団体連合会の御発展と皆様のご後ますますの御健勝・御活躍を心からお祈り申し上げます、年頭の御挨拶といたします。

令和7年 元旦



年頭のご挨拶



国民健康保険中央会

会長 大西 秀人

新年あけましておめでどうござい
ます。

令和7年の新春を迎え、一言ご挨拶を申し上げます。

皆さまには日頃から国保中央会の運営に対しまして、ご支援とご協力をいただいておりますことに厚く御礼を申し上げます。

さて、団塊の世代がすべて後期高齢者となる一方で、少子化は歯止めがかからず、生産年齢人口の減少が続いています。こうした人口構造の変化の影響等により、市町村国保の被保険者数も激減するなど、我が国の社会保障制度やその根幹を成す国民健康保険事業を取り巻く環境はますます厳しさを増しております。

このため、国においては、持続可

能な社会保障制度の構築を目指した、

全世代型社会保障改革が進められており、給付と負担の見直しや、デジタル技術の進展に対応したサービス提供体制の改革等の取組が行われているところであります。

このような状況の中、本会においては本年、以下の四つの重要課題に取り組んでいくこととしています。

第一に、「審査支払機能に関する改革工程表」に基づき、審査支払業務改革、とりわけ二年目を迎える保守運用費の削減のための国保総合システムの最適化を着実に実施してまいります。

第二に、本年から来年にかけて更
改を予定している介護保険審査支払等システム、後期高齢者医療請求支

払システム、特定健診等データ管理システム等のクラウド化について、各システムの品質を確実に確保した上で、円滑なシステム切替に向けて適切な対応を行ってまいります。

第三に、オンライン資格確認等システムの運用やこれを活用した様々な医療・介護DXの推進に関連する業務に取り組み、保険者の皆様の更なる業務の効率化やサービスの質の向上に寄与してまいります。

特に「全国医療情報プラットフォーム」の構築の取組の中で「介護情報基盤の構築」や「予防接種業務のデジタル化」等について、本会が中心となつて積極的に進めてまいります。

また、昨年12月2日より、従来の保険証は新たに発行されなくなり、マイナンバーカードを活用したマイナ保険証を基本とする仕組みに移行したところであり、その円滑な実施に協力してまいります。

第四に、国保データベースシステムの改善・運用や国保・後期高齢者へ
ルスサポート事業の実施等、国保をはじめ関係者の皆様がより効果的に事業を実施し、健康寿命の延伸につなげられるよう、国や関係機関との

連携を図りながら、環境の整備に尽力してまいります。

このように新しい年においても多くの重要な課題に直面しておりますが、令和7年の干支である柔軟性と適応力を象徴し、再生と変化を意味する「乙巳きのとみ」にあやかり、努力を重ね続けながら課題に取り組み、成長と変革の年となるよう努めてまいります。

全国の国保連合会や全国知事会、全国市長会、全国町村会をはじめとする地方団体、国保組合、後期高齢者医療広域連合等の関係団体とも十分に連携を図りながら、保険者等の皆様の業務支援に総力をあげて取り組んでまいりますので、一層のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、新しい年が明るく希望に満ちた素晴らしい一年となることを心からご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。

令和7年 元旦